

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
国際社会学部	国際社会学科		20			20	13	
デジタル共創学部	デジタル共創学部						20	13
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ「公表情報コーナー」実務経験のある教員等による授業科目にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ「公表情報コーナー」役員名簿にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2025.6.6～ 2029.6	コンプライアンス
非常勤	(株)群馬銀行取締役	2025.6.6～ 2029.6	経営、ガバナンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 前年度の12月から1月末までに各授業担当者がWebシステムのシラバス登録により作成し、2月から3月にかけて担当者並びに各コース長が確認し、3月中旬に公表している。シラバスには、概要、到達目標、DP(共愛12の力)との対応、教授法及び課題のフィードバック方法、受講条件・前提科目、評価方法・評価の割合・関連する「DP(共愛12の力)」、テキスト、参考図書、各回の授業内容・スケジュール、授業外に必要な学修時間等を記載している。 本学のシラバス項目は多岐にわたっているため、学生が履修前に必要事項を把握する上で、十分な情報を提供している。学生がシラバスの内容を確実に把握・理解した上で履修開始した上で履修開始ができるよう第1回目の授業を「シラバス授業」と呼び、担当教員は、授業の目標、全15回の流れ、成績評価の方法などシラバス内容の説明した後、授業を開始している。そのため、学生は履修を決めるにあたって、シラバスの内容を正確に把握することができる。	
授業計画書の公表方法	本学ホームページ「公表情報コーナー」授業計画(シラバス)にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績評価に関して、評価方法・評価基準をシラバスに記載し、第 1 回目の授業で必ず説明している。授業アンケートを学期末に実施し、その結果を当該授業の受講生にフィードバックをするとともに、教員が受講生とともに授業方法も含めて改善している。学生も Web システムにより自身の履修科目や出席状況、成績や修得単位数を確認することができる。なお、ポートフォリオを運用しており、学修成果指標とその評価のためのコモンルーブリックが策定され、成果を検証しながら学生と教員との振り返りを経て、次期の学修計画に活かされている。

成績評価

秀	90～100 点（受講者の 10%以内）
優	80～100 点
良	70～79 点
可	60～69 点
認	単位認定
不可	59 点以下（不合格）
欠席	試験受験せず
抹消	受験資格なし

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生の成績を総合的に判定する方法として、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。GPA は成績評価のうち「秀」を「5」として以下、優=4、良=3、可=2、不可=1 として5ポイント満点で集計している。

本学では特待生の継続審査や学業奨励賞や奨学金の審査などに利用している。2～3年次の特待生の継続、学業奨励賞は年間のGPAを審査対象としている。4年生の学業奨励賞は通算を審査対象としている。

※4年生の学業奨励賞を除き1・2年生は年間13科目以上、3年生では年間10科目以上修得していることが特待生の継続や学業奨励賞の審査条件となっている(教職単位を含む)。長期留学参加者や長期インターンシップ参加者の特待生継続審査は学年に関わらず、8科目以上修得していることが審査の条件となっている。なお、複数年にわたって履修する科目(介護等体験や教育実習事前事後指導など)については、成績が出た年の科目数及びGPAとしてカウントする。

積算 方法	年間	$\frac{((\text{秀} \times 5) + (\text{優} \times 4) + (\text{良} \times 3) + (\text{可} \times 2) + (\text{不可} + \text{欠席} + \text{抹消}))}{\text{秀} + \text{優} + \text{良} + \text{可} + \text{不可} + \text{欠席} + \text{抹消}}$
	通算	$((\text{秀} \times 5) + (\text{優} \times 4) + (\text{良} \times 3) + (\text{可} \times 2)) \div (\text{秀} + \text{優} + \text{良} + \text{可})$

客観的な指標の 算出方法の公表方法	本学ホームページ「公表情報コーナー」GPAについて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

国際社会学部

	区 分	単位数	備 考
学部 共通 科目	外国語科目	12 単位以上	＜共愛英語プログラム＞＜共愛中国語プログラム＞ ＜共愛多言語プログラム＞から 1 つのプログラムを 選択 ＜共愛日本語プログラム＞は留学生用。英語コミュニ ケーションコースは＜共愛英語プログラム＞のみ
	MIDA 科目	10 単位以上	必須科目 (◎) 選択必修科目 (★) 2 単位
	共愛コア 科目	16 単位以上	＜共愛・共生領域＞必修科目 (◎) 4 単位 ＜国際・ 社会理解領域＞必修科目 (◎) 2 単位 ＜共愛・共生領域＞＜国際・社会理解領域＞＜地域理 解領域＞からそれぞれ 2 単位以上選択必修 (★)
	キャリア 科目	10 単位	必修科目 (◎) 4 単位 選択必修科目 (★1) 2 単位 以上 (★2) 4 単位以上
	GLOCAL 科 目	8 単位以上	＜Glocal PBL＞必修科目 (◎) 4 単位 ＜Global 領域＞＜Local 領域＞それぞれ履修する のが望ましい
	セルフデ ザイン	12 単位以上	学部共通科目の単位、もしくは外国語科目・MIDA 科 目・共愛コア科目・キャリア科目・GLOCAL 科目・専 門科目の上記単位数を超えた単位
	専門科目	44 単位以上	各コースによって卒業要件が異なる
	演習	12 単位	すべて必修科目 (◎)
	合 計	124 単位以 上	

デジタル共創学部

	区 分	単位数	備 考
学部 共通 科目	外国語科目	12 単位以上	＜共愛英語プログラム＞＜共愛多言語プログラム＞ から 1 つのプログラムを選択 ＜共愛日本語プログラム＞は留学生用。英語コミュニ ケーションコースは＜共愛英語プログラム＞のみ
	共愛コア 科目	16 単位以上	＜共愛・共生領域＞必修科目 (◎) 4 単位 ＜国際・ 社会理解領域＞必修科目 (◎) 2 単位 ＜共愛・共生領域＞＜国際・社会理解領域＞＜地域理 解領域＞からそれぞれ 2 単位以上選択必修 (★)
	GLOCAL 科 目	8 単位以上	＜Glocal PBL＞必修科目 (◎) 4 単位 ＜Global 領域＞＜Local 領域＞それぞれ履修する のが望ましい
	MIDA 科目	10 単位以上	必須科目 (◎) 選択必修科目 (★) 2 単位
	キャリア 科目	10 単位	必修科目 (◎) 4 単位 選択必修科目 (★1) 2 単位 以上 (★2) 4 単位以上
	演習	12 単位	すべて必修科目
	専門基盤科目	32 単位以上	＜DX モジュール＞ 必修科目 (◎) 22 単位 選択必修科目 (★) 10 単位以上 (Lv2 : 3 科目 6 単位以上/Lv3 : 2 科目 4 単位以上)
	専門発展科目	24 単位以上	＜ICT モジュール＞＜マネジメントモジュール＞＜食・ 健康・暮らしモジュール＞から 1 つ選択 ＜ICT モジュール＞ 必修科目 (◎) 6 科目 12 単位 選択必修科目 (★) 12 単位以上 (Lv1 : 3 科目 6 単位以上/Lv2 : 3 科目 6 単位以上)

		<マネジメントモジュール> 必修科目 (◎) 5 科目 10 単位 選択必修科目 (★) 14 単位以上 (Lv1 : 3 科目 6 単位以上 / Lv2 : 4 科目 8 単位以上) <食・健康・暮らしモジュール> 必修科目 (◎) 6 科目 12 単位 選択必修科目 (★) 12 単位以上 (Lv1 : 2 科目 4 単位以上 / Lv2 : 4 科目 8 単位以上)
合 計	124 単位以上	
卒業の認定に関する方針の公表方法		本学ホームページ「公表情報コーナー」取得可能学位、科目区分と必修取得単位数、成績評価にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose
収支計算書又は損益計算書	https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose
財産目録	https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose
事業報告書	https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose
監事による監査報告(書)	https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ「自己点検評価と第三者評価」にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/check/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際社会学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ教育の目的にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/intention/ ）
（概要） 「グローバル」をキーワードに、「国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処できる人材の養成」を教育目的としています。 本学では、幅広い視野を養う教養教育と、自分に合った専門性を深める専門教育を組み合わせたカリキュラムを展開しています。また、海外体験や地域体験の機会を多く設けることで、国際社会と地域社会の双方を実践的に学ぶ環境を整えています。 学科内には履修モデルとして 5 つのコースを設置しており、国際社会専攻には英語コミュニケーションコース、国際コース、経営コース、心理・人間文化コース、地域児童教育専攻には学校教育コース、幼児教育・保育コースを設けています。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ 3 つのポリシーにて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/ ）
（概要） 国際社会学部は、「国際社会の在り方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の育成」を教育の目的としています。 そのため本学部は、学則に定める在学期間を満たし、本学部の履修規程に則り 124 単位を修得して下記に掲げる能力を身につけた学生に、学士（国際社会）を授与します。 1. 国際社会と地域社会の関連性についての識見 2. 目標を設定し達成に向けて自律的に行動する力 3. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力 4. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ 3 つのポリシーにて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/ ）
（概要） 国際社会学部では、キリスト教に基づく教育理念「共愛＝共生の精神」の下、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた諸能力を修得した人材を育成するため、共愛コア科目・外国語科目・MIDA（Mathematics, ICT, Data science, AI）科目・グローバル科目・キャリア科目・専門科目・演習などの科目群により教育課程を体系的に編成します。専門科目はコース毎に決められており、学術的専門領域に合わせて深く学びます。また他コースの専門科目でも、自分の関心に合わせて履修することができます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ 3 つのポリシーにて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/ ）
（概要） 国際社会学部は、「国際社会の在り方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の育成」を教育の目的としています。そのために、国際社会と地域社会の関連性についての識見、目標を設定し達成に向けて自律的に行動する力、問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能、国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力の 4 つの能力を身につけることを教育の目標にしています。 この教育の目的と目標を踏まえ、次のような人物の入学を期待しています。 1. 国際社会と地域社会の両方について関心をもっている人 2. 学んだ知識を活用し、他者とともに考えを表現したり実践したりする意欲をもっている人 3. 本学部と志望するコースの教育内容をよく理解したうえで、本学部での学修を強く望んでいる人

学部等名 デジタル共創学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ教育の目的にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/intention/） （概要） デジタル共創学部では、「デジタル技術についての見識を活かし、他者と共に Well-Being な社会を創造できる人材の育成」を教育目的としている。本学では、他者と協働しながら「新たな価値」を創造することを「共創」と捉え、学部名を「デジタル共創学部」としている。また、単一学科であることから、学部の学びの特徴を表す「デジタル共創」をそのまま学科名としている。 Well-Being とは、心身の健康に加え、人とのつながり、社会貢献、自己実現など、多角的な充足感を意味する。本学部では、デジタル技術を活用し、個人のみならず社会全体の Well-Being 向上に貢献できる人材の育成を目指している。なお、学位分野は「工学関係／経済学関係／家政関係」とし、学位名称は「学士（デジタル共創）」としている。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ3つのポリシーにて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/） （概要） デジタル共創学部は、「デジタル技術についての見識を活かし、他者と共に WellBeing な社会を創造できる人材の育成」を教育の目的としています。そのため本学部は、学則に定める在学期間を満たし、本学部の履修規程に則り 124 単位を修得して下記に掲げる能力を身につけた学生に、学士（デジタル共創）を授与します。 1. 社会と技術の関連性についての識見 2. 目標を設定し達成に向けて自律的に行動する力 3. 共創に対応できる十分なコミュニケーション力 4. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能技術
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ3つのポリシーにて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/） （概要） デジタル共創学部では、キリスト教に基づく教育理念「共愛＝共生の精神」の下、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた諸能力を修得した人材を育成するため、共愛コア科目・外国語科目・MIDA (Mathematics, ICT, Data science, AI) 科目・グローバル科目・キャリア科目・専門科目・演習（ゼミナール）などの科目群により教育課程を体系的に編成します。 専門科目は学術的専門領域に合わせたモジュールで構成され、全員必修の DX の学びと、自分の関心に合わせて選択した領域を体系的に学びます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ3つのポリシーにて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/） （概要） デジタル共創学部では、情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT) の進展により、社会構造が日々大きく変化する大変革時代において、人々の生活・社会・経済をあらゆる面でより良い方向に変化させるデジタル・トランスフォーメーション (DX) を推進し、Well-Being な社会を創造していくことが重要であると考えています。 そこで、本学部は「デジタル技術についての見識を活かし、他者と共に Well-Being な社会を創造できる人材の育成」を目的とし、次のような姿勢をもつ人物を求めています。 1. 最先端の技術を追い求める姿勢をもち、それを活かして社会を創造しようとする思いをもっている人 2. デジタル・トランスフォーメーション推進の学問的基盤となる情報科学・コンピュータサイエンスの学びを強く望んでいる人 3. デジタル技術の応用先となる、他の様々な学問分野を学ぶ姿勢をもっている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ「公表情報コーナー」教員組織図にて公表
<https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
国際社会学部	－	16 人	13 人	3 人	人	1 人	33 人
デジタル共創学部	－	6 人	2 人	2 人	人	人	10 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		86 人					86 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページ「公表情報コーナー」 教員組織、各教員が有する学位及び業績にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際社会学部	250 人	350 人	1.4%	1000 人	1348 人	1.3%	4 人	4 人
デジタル共創学部	100 人	75 人	0.7%	400 人	75 人	0.1%	0 人	0 人
合計	350 人	425 人	1.2%	1400 人	1423 人	1.0%	4 人	4 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際社会学部	302 人 (100%)	2 人 (0.66%)	279 人 (92.39%)	21 人 (6.95%)
デジタル共創学部	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	302 人 (100%)	2 人 (0.66%)	279 人 (92.39%)	21 人 (6.95%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項）				

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
シラバスには、概要、到達目標、共愛 12 の力との対応、教授法及び課題のフィードバック方法、受講条件・前提科目、評価方法・評価の割合・関連する「共愛 12 の力」、テキスト、参考図書、各回の授業内容・スケジュール、授業以外に必要な学修時間等を記載しています。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価に関して、評価方法・評価の割合をシラバスに記載し、シラバス授業で必ず説明しています。授業アンケートを実施し、その結果を当該授業の受講生にフィードバックをするとともに、教員が受講生とともに授業方法も含めて改善しています。				
本学は、ディプロマポリシーで「学則に定める在学期間を満たし、かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・個性的選択科目などからなる 124 単位を修得した学生に対し」、学士（国際社会）を授与します。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際社会	国際社会	124 単位	有・無	単位
デジタル共創	デジタル共創	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ「公表情報コーナー」校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境にて公表 https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
国際社会 学部	国際社会 学科	780,000 円	260,000 円	300,000 円	
デジタル 共創学部	デジタル 共創学科	1,100,000 円	260,000 円	300,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援については、学生センター、図書館、外国語センター、情報処理センターが主たる管轄部署となっています。 留年者や休・退学者の把握は日常的に行われ、毎月実施している学生グループ会議および教授会で報告し、学長が承認しています。留年者および休・退学者の防止については、一斉出欠席状況調査を行って、欠席の多い学生の情報は、学生センター職員よりゼミの担当教員に報告や相談を行っています。 外国語センターは英語・中国語などの語学、図書館にあるラピタデスクはレポート作成の支援、4号館では授業外学修全般および主体的・能動的学修の支援を行っています。また、研修を経た学生を英語チューター・中国語チューター（語学）、図書館ラピタデスク（レポート作成支援）、ITサポート（PC利用についての支援）に採用し、学生による学生のための学修支援制度を行っている。障がいのある学生に対する修学支援については、DE&I推進室と連携を取りながら行っています。 経済面の修学支援として、共愛学園ともさくら奨学金、学業奨励奨学金、コース学業奨励奨学金、ワークスタディ奨学金、RA奨学金、特別奨学金、災害修学支援金、海外留学奨学金の8種類の学内奨学金制度があります。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学の教育理念「共愛・共生の精神」を基に、地域社会で活躍できる人材として社会に送り出せるよう、全学年においてサポートを行うプログラムを実施しています。共愛学園中期経営計画では「学生のキャリア支援」を掲げ、学生のキャリア形成、就職指導、卒業後のフォローアップまで総合的に支援を行っています。 1年次～3年次には自分を知り、社会と産業を知り、その主要な要素である企業を知ること、大学卒業後に進むべき進路を見出し、その進路を進む力を身につけるためキャリアプランニングⅠ～Ⅳを開講しています。さらに目的に合わせて内容や参加期間が多様なインターンシップや学内会社説明会を実施しています。 なお、教職をめざす学生には、教職支援室が必要な情報の提供や支援・指導を行っています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の身体・健康と衛生に関して保健室が中心に取り組んでいます。保健室は、養護教諭1名が常勤で勤務し、定期健康診断の管理と問題のある学生は校医と連携して個別対応を行っています。また、学内各所に手指消毒液とマスクを配置し、感染症予防に努めています。心の悩みについてはDE&I推進室が担当していますが、養護教諭も構成員の一人として学生の生活支援に努めています。

本学は、ハラスメントに対しては、非常に厳しく対応しています。6名の学内委員と4名の相談員で構成されたハラスメント防止対策委員会を設置し、啓発活動および実際の調停なども行っています。本委員会は、その他のハラスメント（ジェンダーハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント等）にも対応し、啓発、防止、救済活動を行っています。教職員には、セクシャルハラスメントガイドラインの作成および配布も徹底しています。その他、スタッフ会議においてハラスメント防止研修会も実施しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ「特色ある学び」にて公表

<https://www.kyoai.ac.jp/guide/feature/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F110310101844
学校名（〇〇大学 等）	共愛学園前橋国際大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 共愛学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		319人（178）人	304人（163）人	328人（182）人
内 訳	第Ⅰ区分	107人	91人	
	（うち多子世帯）	（22人）	（19人）	
	第Ⅱ区分	52人	47人	
	（うち多子世帯）	（13人）	（一人）	
	第Ⅲ区分	29人	29人	
	（うち多子世帯）	（一人）	（一人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	43人	41人	
	区分外（多子世帯）	88人	94人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（一）人
合計（年間）				331人（182）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	一人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	13人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	一人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	40人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	28人	人	人
計	46人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。